

# 桐生繊維業界の実態

昭和60年1月～12月

桐生市繊維振興協会

# 桐生繊維業界の実態

昭和60年1月～12月

桐生市織姫町1番1号

桐生市繊維振興協会

昭和60年12月末現在

## 桐生繊維業界の概況

1. 調査対象団体数	21団体（桐生商工会議所繊維部会除く）
2. 産地収入	
	（昨年比較）
(1) 生産高	405億8,111万円（88.9%）
(2) 加工収入高	248億5,171万円（90.9%）
(3) 販売高	262億8,478万円（106.9%）
合計	917億1,760万円（94.0%）
3. 総組合員数	1,569事業所
4. 総従業員数（家族従業員含）	9,924人
5. 一事業所当り従業員数	6.3人
6. 一事業所当り生産販売加工高	5,846万円
7. その他参考	
	（比較）
54年産地収入	1,078億1,166万円（100）
55年	1,170億6,380万円（109）
56年	1,110億8,757万円（103）
57年	1,083億3,093万円（101）
58年	1,023億634万円（95）
59年	976億1,960万円（91）

1. 組合員数及び従業員数

所属団体	組合員数 事業所	従業員数					従業員 平均年齢 才
		従業員		家族従業員		計 人	
		男 人	女 人	男 人	女 人		
桐生内地織物(協)	345	740	1,180	134	152	2,206	50
桐生織物(協)	619	3,577	384	570	861	2,172	48
桐生織物商業(協)	9	32	14	0	0	46	43
桐生織物産地元売(協)	23	94	40	7	15	156	45
両毛輸出織物整染(工)	31	535	275	44	32	886	48
桐生染色(協)	39	219	34	26	19	298	47
桐生繊維製品(協)	56	210	725	38	40	1,013	29
桐生服地(協)	12	119	159	8	5	291	47
桐生糸商組合	24	42	15	5	5	67	44
東日本編レース(工)	44	46	42	41	36	165	45
桐生撚糸(工)	58	32	57	58	65	212	47
桐生婦人子供服製造(協)	9	19	116	14	12	161	27
両毛輸出スカーフ(協)	10	10	16	11	12	49	—
桐生織物整経(協)	92	3	26	92	92	213	55
桐生意匠(協)	44	14	5	10	19	48	32
桐生紋紙(協)	35	22	3	35	30	90	—
東毛ジャガード刺繍(協)	20	32	41	26	31	130	35
桐生刺繍商工業(協)	65	277	497	143	153	1,070	41
桐生金銀糸(協)	13	35	10	0	6	51	42
桐生織物買継商友会	25	8	2	27	24	61	46
群馬県綿スフ織物(工)	115	199	243	39	58	539	41
計	1,569	3,045	3,884	1,328	1,667	9,924	—

注(1) 桐生織物協の組合員数の数字は、桐生服地協の12事業所と、群馬県綿・スフ織物(工)の115事業所のうち107事業所、計119事業所を含む。

(2) 桐生糸商組合の場合、組合員24社中8社の計です。

2. 生産，加工高及び受注（出荷）先区分（工業部門）

単位 万円

所 属 団 体	生産高	加工高	計	昨年比較	県内	県外
桐生内地織物(協)	872,002	58,979	930,981	96	0	100
桐生織物(協)	1,677,536	—	1,677,536	107	—	—
両毛輸出織物整染(工)	—	517,311	517,311	99	30	70
桐生染色(協)	—	163,114	163,114	96	60	40
桐生繊維製品(協)	159,768	977,977	1,137,745	92	10	90
桐生服地(協)	430,000	—	430,000	105	0	100
東日本編レース(工)	2,475	—	2,475	—	0	100
桐生撚糸(工)	—	33,076	33,076	60	80	20
桐生婦人子供服製造(協)	66,400	109,710	176,110	93	0	100
桐生織物整経(協)	—	25,004	25,004	70	—	—
桐生意匠(協)	29,181	—	29,181	110	76	24
桐生絞紙(協)	44,628	—	44,628	95	98	2
東毛ジャカード刺繍(協)	88,304	—	88,304	107	3	97
桐生刺繍商工業(協)	750,000	600,000	1,350,000	90	0	100
両毛輸出スカーフ(協)	54,643	—	54,643	78	0	100
群馬県綿スフ織物(工)	313,174	—	313,174	—	0	100
計	4,058,111	2,485,171	6,543,282	—	—	—

注：桐生服地協の数字は他の組合と重複するため計から除く。

### 3. 販売高及び出荷先区分 (商業部門)

単位 万円

所 属 団 体	販 売 高	昨 年 比 較	桐生市内	県 内	県 外
桐生織物産地元売(協)	797,372	92	0	0	100
桐生織物商業(協)	616,458	96	0	0	100
桐生糸商組合	859,648	—	76	3	21
桐生金銀糸(協)	200,000	105	90	3	7
桐生織物買継商友会	155,000	98	0	0	100
計	2,628,478	96	33	1	66

注：桐生糸商組合は組合員24社中8社分の数字です。

### 4. 内需向，輸出向区分

単位 万円

所 属 団 体	内 需 向		輸 出 向		計
	金 額	割合	金 額	割合	
桐生織物(協)	1,071,258	64	606,278	36	1,677,536
桐生織物商業(協)	83,200	13	533,258	87	616,458
両毛輸出織物整染(工)	366,472	71	150,839	29	517,311
桐生染色(協)	101,124	62	61,990	38	163,114
桐生繊維製品(協)	1,048,543	92	89,202	8	1,137,745
桐生刺繍商工業(協)	1,340,000	99	10,000	1	1,350,000
桐生金銀糸(協)	80,000	40	120,000	60	200,000
両毛輸出スカーフ(協)	3,000	5	51,643	95	54,643
桐生織物整経(協)	12,486	50	12,518	50	25,004
桐生意匠(協)	23,380	80	5,801	20	29,181
桐生紋紙(協)	31,240	70	13,388	30	44,628
群馬県綿スフ織物(工)	293,128	94	20,046	6	313,174
計	4,453,831	73	1,674,963	27	6,128,794

5. 各団体の取扱品目

団体名	品 目				
	割 合	割 合	割 合	割 合	割 合
桐 生 織 物(協)	合織織物	人絹織物	絹織物	ベンベルグ織物	その他
	58	19	11	6	6
桐 生 内 地 織 物(協)	帯 地	広 巾	着 尺	服飾工芸	
	65	20	8	7	
桐 生 織 物 商 業(協)	化 合 織 物	二次製品			
	93	7			
桐 生 織 物 産 地 元 売(協)	帯 地	着 尺	服飾工芸	二次製品	その他
	54	27	6	4	9
両 毛 輸 出 織 物 整 染(工)	ニ ッ ト	合 織	人 絹	絹	
	52	44	3	1	
桐 生 染 色(協)	合 織	レーヨン	綿 ウール等	絹	
	39	33	17	11	
桐 生 織 維 製 品(協)	ブラウス	ワンピース	コ ー ト	その他	
	70	10	5	15	
桐 生 服 地(協)	婦人服地	インテリア 資 材			
	90	10			
桐 生 糸 商 組 合	化 合 織	生 糸	綿・スフ	その他	
	62	20	6	12	
東 日 本 編 レ ー ス(工)	カーテン レ ー ス	衣料レース	資 材 そ の 他		
	55	30	15		

注：桐生糸商組合は、組合員24社中8社分の数字です。

桐生撚糸(工)	人絹撚糸	絹撚糸	合繊撚糸		
	60	20	20		
桐生婦人子供服製造(協)	婦人 ブラウス	子供服	スラックス	スカート	
	90	6	3	1	
両毛輸出スカーフ(協)	スカーフ				
	100				
桐生織物整経(協)	整経				
	100				
桐生意匠(協)	帯	洋反	夜具	インテリア	その他
	19	18	15	6	42
桐生紋紙(協)	紋紙				
	100				
東毛ジャカード刺繍(協)	ワッペン	トレーナー	Tシャツ	その他	
	45	24	13	18	
桐生刺繍商工業(協)	婚礼関係	婚礼加工	ブラウス 加工	ハンカチーフ	雑貨
	59	27	6	4	4
桐生金銀糸(協)	金銀糸	関連製品			
	80	20			
桐生織物買継商友会	帯	二次製品	染加工品	着尺	広巾・服地 その他
	69	16	10	4	1
群馬県綿スフ織物(工)	衛生材料	硝子 繊維織物	婦人服地等		
	54	30	16		



6. 生産加工部門の現有設備状況

所属団体	設備名	数量	所属団体	設備名	数量	
桐生内地織物(協)	広巾織機	217	桐生撚糸(工)	イタリー式撚糸機	174	
	並巾 "	1,629		リング式 "	4	
	小巾 "	311		アップワインダー	6	
	レピア "	123		その他	90	
	計	2,280		計	274	
桐生織物(協)	超自動織機スルーザー	90	桐生婦人子供服製造(協)	本縫ミシン	208	
	" レピア	531		ロックミシン	43	
	自動及び普通織機	2,976		プレス	4	
	計	3,597		特殊ミシン	58	
両毛輸出織物整染(工)	精練漂白機	98	桐生織物整経(協)	計	313	
	乾燥機	143		整経機	113	
	染色機	142		糸繰機	9,040	
	仕上機	85		計	9,153	
	計	468		桐生意匠(協)	拡大機	40
桐生染色(協)	染色機(常圧噴射式)	136	コピー機		12	
	" (高圧 " )	42	コンピューター		9	
	" (汎 " )	47	パンチング		8	
	チーズ及チーク	67	計		69	
	計	292	桐生紋紙(協)	ピアノマシン	106	
桐生繊維製品(協)	縫製ミシン	1,306		裁断機	36	
	プレス	83		編機	45	
	裁断機	82		ワンパンチ	28	
	計	1,471		その他	31	
桐生服地(協)	超自動織機	65	桐生刺繡商工業(協)	計	246	
	自動 "	42		横振ミシン	2,000	
	普通 "	183		ジャカードミシン	4,000	
	計	290		計	6,000	
	東日本編レース工	ラッセル機		286	群馬県綿スフ織物(工)	広巾普通織機
東毛ジャカード刺繡(協)		ジャカードミシン	74	小巾 "		254
		超自動レピア	43	超自動レピア		43
		ガラス繊維織機(規制外)(レピア4台含む)	177	計		644
		計	644			

7. 最近の推移（60年10月～61年2月）

所属団体	項	受注，引合の状況				販売（加工）単価の状況			
		増	変わらず	下降	前年対比	上昇	変わらず	下降	前年対比
桐生内地織物(協)			○		100		○		100
桐生織物(協)		○			115			○	93
桐生織物商業(協)									
桐生織物産地元売(協)				○	93			○	93
両毛輸出織物整染(工)			○		100			○	98
桐生染色(協)				○	90		○		100
桐生繊維製品(協)			○		100		○		100
桐生服地(協)		○			105	○			105
桐生糸商組合				○	96			○	95
東日本編レース(工)				○	80			○	80
桐生撚糸(工)									
桐生婦人子供服製造(協)				○	96			○	96
両毛輸出スカーフ(協)				○	70			○	80
桐生織物整経(協)				○	88			○	95
桐生意匠(協)		○			105		○		100
桐生紋紙(協)			○		100		○		100
東毛ジャカード刺繍(協)			○		100		○		100
桐生刺繍商工業(協)				○	90			○	90
桐生金銀糸(協)		○			105		○		100
桐生織物買継商友会			○		100		○		100
群馬県綿スフ織物(工)		○			111		○		100
計		5	6	8	—	1	9	9	—

## 8. 事業概要（昭和60年1月～12月）

### 1. 桐生織物協同組合

#### ○ 商品，消費者ニーズの変化について

内外向け織物ともに，レーヨン糸等長繊維糸を素材とした当産地の変り織物商品に対する指向が強く，海外向けはラメ入りの婦人服地を中心に引合いが活発で，欧米等先進国向けは，2月中旬に，円が180円台を上下する影響下乍ら，成約は厳しい採算で増加している。中近東向けは，合繊織物を中心に大きく低迷している。

#### ○ 状況，事業概要

輸出向け織物は，対ドル為替相場が年初より250円台に始まり，G5会議の時点まで，概ね240～250円台で比較的長期安定を続け，長繊維織物の復活もあって順調に推移するかにみえたが，9月末以降国の政策により突如円が高騰を続け，12月5日以降は200円台と厳しい環境の中に呻吟し低迷を続けていた中近東市場は，この円高が更に拍車をかける結果となって大きく激減するに至った。

しかし乍ら，欧米等先進国向けを中心に，9月の円高突発時で概ね12月までの成約ができていたことから，年間の前年対比では，数量が4%増を示しているものの，出荷額は，円高影響等で販売単価のダウンを余儀なくされたため，0.3%減少し，60億6千3百万円に止った。

一方，内需向け織物は，裾野の広い婦人服地が2ヶ年続いた天然繊維指向から脱却して，年初から桐生独特のフェミニン調の長繊維ジャカード商品復活の兆しが芽生え，インテリアや資材・ネクタイ等も堅調な歩みを示し，トータルにおいて各月ともに前年を超える出荷額をみることができたことから，前年対比では，12%増の107億円強を示し，内外向け織物の総出荷額において，167億7千5百余万円を確保し，前年対比で7.4%増の実績を収めることができた。

#### ○ 今後の課題

##### (1) 輸出向け織物

- ① 円高対策として産地の特技を活かしての内需転換。
- ② 円高を克服する新商品の開発と商品の拡大。

- ③ 先進国向け輸出の増強。
- ④ 製織技術仕上げ加工技術の向上。
- ⑤ 中近東市場への新商品による再挑戦。
- ⑥ 海外市場の市場調査とセールス活動の強化。

(2) 内需向け織物

- ① 婦人服地は、日本でもファーストクラスにランクされており、桐生産地の製織技術指向に大きく貢献している。輸出、内需の車の両輪の産地として、円高による輸出の減少の際の助け役としての振興策の推進。
- ② 内需業界をリードする決め手としてファッションの先取り。
- ③ 将来を目途に、生地売り一辺倒から脱却した産地素材を活用した完成商品分野へのトライ。

(3) その他

後継者対策，設備の近代化対策等。

2. 桐生内地織物協同組合

○ 商品消費者ニーズの変化について

ますます、個性化，多様化への傾向が強まっております。

特に女性の職場進出は、衣料の需要動向を変え、消費者というより生活者として受けとめ、自由に楽しむものとして求められております。

和装も伝統的なものと新しいファッションの中でのものと二つの方向を示しています。

○ 状況，事業報告

和装を主体とする当内地織物業界は、需要の低迷と不安定な商取引の情勢の中で依然として苦戦を余儀なくされました。更に織機の共同廃棄による機台及び組合員数の減少は産地力にかなりの痛手となりました。従って、当組合の年間生産高は、93億で前年対比95.7%にとどまりました。

当組合としては、この苦境を乗り越えるべく前向きな事業を推進しました。

- ① 需要開拓をめざす移動販売会，新販路開拓事業，求評会，各種宣伝会の積極的な展開。
- ② 取引体制の再構築をめざす共同販売事業及び事業推進委員会事業による新販売ルートの開拓。

- ③ 桐生織後継者育成並びに青年層の人材養成等。
- ④ 当組合設立30周年事業の実施。(式典表彰, 30年展記念誌の発行等)
- ⑤ デザイン高度化事業の展開。

○ 今後の課題

昭和61年も, 大局的には円高貿易摩擦, 内需の伸び悩みから景気の弱まりが, 感じられます。特に繊維業界は, 長期構造不況需要の変化, 取引流通の不安, 労働力問題等厳しい環境が継続しております。

この情勢下, 当組合の課題と方向の要点を記す。

- ① 見込生産から注文生産への移行。(製品づくりの企画化)
- ② 情報収集, 消費動向の適切な把握と指導。
- ③ 新しい販売流通体制の構築と推進。
- ④ 技術革新へ対応できる業者意識の高揚と新設備導入。
- ⑤ 桐生織デザイン高度化事業の継続実施と新商品力の強化。
- ⑥ 各種事業の効果的な見直しと展開。
- ⑦ 後継者, 従事者の育成青年層の活性化及び人材養成。
- ⑧ 地場産業振興センターの活用化, 並びに両織協一体化推進等。

新しい時流の中で, 生き残れる産地の再構築, 街ぐるみの対応が不可欠と考えます。

3. 桐生織物産地元売協同組合

○ 商品, 消費者ニーズの変化について

和装離れの現状を探ってみると, 現代生活様式にマッチしないため, 日常着なくても不自由しなくなった。普段使用しないものであるため, 値段の高低にかかわらず, 特に必要を生じたもの以外は, 買わなくなった。

また, 着物を着なければならないという機会が少なく, 大方洋装で間に合っ  
てしまっている。こうした現況が, 不振の最大原因である。それでも, 日本人  
である以上着物に対する魅力は強く, 着物を着た時は, 日本人としての感覚を  
強く感じ, 大和撫子としての美しさは, 格別なものである。

今の社会の服装を見ると千差万別である。現在の文明社会にあっては, 衣料  
品は, ファッション化の一語につきる。そして個性的なものが, 強くなってき  
ている。この個性美やファッションの中に和装としてのファッションがあるべ

きである。ここら辺が、今後の和装品にかせられた課題と言えよう。

○ 状況，事業概要

呉服業界の動きは、衰退が顕著で、特に後染織物産地は、高級品普通品共、どの産地も生産が減退している。販売合戦は、あらゆる手段を講じて戦っているが、その売上げは、はかばかしくいかない現状である。

○ 今後の課題

特に下記の点は留意したい。

- ① 当産地の特徴を生かした製品作り。
- ② 多様化した消費者ニーズに適した価値ある商品作り。
- ③ 変化に対応できる生産態勢を計る。
- ④ 産地元売業者としての自覚と総合企画。
- ⑤ 時代に適応したファッション化。

4. 両毛輸出織物整染工業組合

○ 状況，事業概要

加工実績は、前半順調に推移したもので、後半円高影響による落込み分をカバーできた。加工総額は、僅かな減少に止ったので、昨年比変わらずで推移した。

○ 今後の課題

61年度の大きな課題は、円高による加工賃引下げに対する防衛策である。現に発注者側から円高を理由に厳しい加工賃引下げ要請が表面化している。

経済変動が起ると最初にいじめられるのが、我々衣類加工業界である。自主減産による切り抜け対策が出来ない業界であるので、業界が結束して防衛しなければならない。

これまでの下請的概念を払拭することにより、それには、消費者ニーズを先取りし、メリットある加工技術の開発に努め、発注者をリード出来る設備改善を図ることにより適正な加工賃の確立を計って行かなければならない。

5. 桐生染色協同組合

○ 商品，消費者ニーズの変化について

消費者趣向の個性化，多様化に伴い，染色加工素材の種類が多く，少量，多品種短サイクルが定着し，この状態が一般化した。また，帯・着尺等，和装関係の機業の転廃業が多く，これらの加工数量は減少している。

○ 状況、事業概要

輸出、内需関係ともに加工数量は横ばい、あるいは、減少気味で総体的には加工金額、数量何れも減少した。原因として輸出関係の受注減、輸入繊維製品の増大による生産数量、加工数量の減退、きもの離れによる帯・着尺等、和装関係の不振等が考えられる。

○ 今後の課題

- (1) 消費者ニーズの多様化から染色素材の複雑化、少量・多品種短サイクルが定着し、これらを基礎とした経営方針及び適正加工賃の確立。
- (2) 高度の染色技術、省力化、省エネ化を図るため設備の近代化、更新の必要性。
- (3) 後継者の育成、従業員の高令化対策等に、課題は山積しているが、業界の現状は輸出、内需を問わず、一層きびしさを増している。

この中において問題解決のためには、経営の合理化、適正加工賃の確立、従業員の賃金並びに待遇保障、後継者育成、高令化の解消、高度な染色技術、得意先のニーズに適応、そして健全な経営保持というサイクルを目指し努力しているが、昨秋以来から急激な円高問題もあり、今後繊維業界全体が一層きびしい状況になるのではないかと憂慮している。

6. 桐生繊維製品協同組合

○ 商品、消費者ニーズの変化について

生活文化の豊さを求めている消費者ニーズは、益々多様化しており、必需品から必欲品の時代は去り、生活空間での遊び心を主張出来る商品群が台頭しており、素材もジャカード地、光のあるレーヨン使い等、それに加えて、プリント、レース等の複合商品が流れとなっております。

○ 状況、事業概要

変化する市場の情報、売れ筋情報を素早くキャッチしての物造りは当然の事乍ら、当地区の婦人ブラウス等は、全体の受注量は、余り変わっていないが中身が大巾に変化して来ております。ロットは少が当たり前、従来の納期感覚でなく、売れる時に確実に店頭揃えられるタイミングとスピード、柔軟性ある物造り体制となって来ております。又、それが最重点です。

春夏物については、本命シーズンだけに比較的好況裡に推移致し、収益性も

良かったと思われまます。

後半の秋冬物については、市場の消費低迷さも加り、取引先のアパレルメーカーによって、条件等も大分格差がついて来ており、全般的に生産の波が企業毎にあり、余り芳しい状況とは言いがたかったと思います。

○ 今後の課題

貿易摩擦や円高等により大きく変化して来ておる経済動向と消費拡大策の中にアパレル生産業界は産地間競合の激化となって来ており、都市工場と地方工場、輸出業者から内需への転換、又は品質、コストダウン要求、多品種、少量、短サイクル化への進展策等の環境条件下で当地区は今後営業、受注力、管理生産、技術力を強化し、ノウハウある得意技をもった企業体質をなし、近い将来はグループ化により産地内で分業・協業を各自責任をもって、より密にし情報交流をはかり乍ら、新しい産地の構築を目ざして行くべきであり、必然的に賃加工基地だけでなく、直販体制への移行も可能なものとして努力して行くべきかと存じます。

7. 桐生服地協同組合

○ 商品、消費者ニーズの変化について

綿・麻・毛等の素材使用の天然繊維指向より、レーヨン使いのジャカード織が好評となった。

○ 状況、事業概要

昭和58・59年の婦人服地業界は、世界的に天然繊維指向で、合化繊維主体の当産地は苦戦したが、昭和60年に入り天然短繊維素材のカジュアルからフェミニン調へと移行し、プリントの復活とジャカードも世界的な流行となり素材として、レーヨンが見直され、これ等は、最近の特徴として、D・Cブランド（デザイナー・キャラクター・ブランド）を、積極的に取扱っているのが、当産地の最も得意とするものであり、本年はまずまずの業績であった。

組合事業としては、三菱アセテート株式会社の後援により、当組合と米沢産地で技術研究、情報交換を行った。また3月には、桐生服地求評研究会として東京ロマン株式会社、取締役店次長、明石孝氏ほか、1名の講師をお招きして流通業界の現状と将来についての講演会を開催した。



○ 今後の課題

これから益々多品種、少量生産、短サイクル化の時代を迎え、流行の変遷は激しく本年順調であった商品は、翌年は不調の商品となることを充分想定して、この対応策として、組合も各企業も情報交換を密にして、消費者ニーズの変化を素早くキャッチして、的確な商品開発をすることが急務であり、この態勢を作ることにより技術の桐生として他産地にはない強味が発揮出来るものと思う。

8. 桐生糸商組合

○ 商品、消費者ニーズの変化について

年初においては、衣料関係が昨59年より短繊維ライフ志向の中純桐生織物以外にその流通経路を探り得る事により、原糸販売面に多少の活路を見出せる事が出来た。年央に至るや、長繊維産地の当桐生織物産地に僅かにフォローの風が巻き起り、所謂フィラメントライクな織物の活況の幕開けとなった。しかし秋口に入り、G5以降貿易摩擦を引き金にした円高波乱が月を追う毎に景気の低迷を余儀なくされ、近年にないより暗いムードの中越年をした。

○ 状況、事業概要

合織糸から天然糸化織糸へと流行が変り、尚且つ小口化され、急ぎの注文が多く、多忙の割には、売上利益共に低下を強いられた。

○ 今後の課題

- (1) 品種の多様化に対応できる産地態勢を取る事。
- (2) 和装関係の立直しを計るため帯・着尺共に用途の拡大を図る。  
(例：着尺地・帯地の織物及び技術の洋装化等)
- (3) 後進国の追上げに対する策を確立する。特に輸出関係。
- (4) 小企業が多いので合理化も限度があるが、経費の節減に努める。

9. 桐生刺繡商工業協同組合

○ 商品、消費者ニーズの変化について

婚礼衣裳関係は、やや減少気味ですが、平均してきた。他の刺繡関係は、減少し、本年は非常に数量も少ない。しかし、前年度がやや良かったので、機械が多くなり過当競争が激しく良くない状態である。

○ 状況、事業概要

前述のように刺繡業界は下請業者が多く、人数もあまり必要としないで、

安易に機械も入り、業界に他業界から入りやすく出やすい事もあり、まとめて非常に困っております。

その様な状態ですので、年間仕事の波が多く不安定である。何とか、自分で生産できる態勢がほしいものです。

#### 10. 桐生金銀糸協同組合

##### ○ 商品、消費者ニーズの変化について

衣料分野でヨーロッパを中心に光沢のある素材が流行しつつあり（円高等の難問があるものの）当組合としては、当面明るい材料と思われる。

#### 11. 東日本編レース工業組合

##### ○ 状況、事業概要

昨年に比して、今年度は全般的に生産減を示している。カーテンレース製品は、昨年20%減となっている。これは、昨年と同様、住宅産業の不振が大いに影響している。

また素材であるポリエステルは、洗濯すると真白となり個人宅の洗濯機にて自由に洗濯できるので買替える必要がない。その為、新規住宅ができなければ業界は不況とならざるを得ない。衣料関係においても、このところ需要がだんだん減退している傾向にある。

レーヨン・ショールも一時は優勢であったが、北陸で安値で引きうけているので、関東は、だんだん生産も減少してきているので、これの見透しは暗い。

##### ○ 今後の課題

現状における編レース業界では、従来のような量産体制による経営安定を求めることは、誠に危険と言わざるを得ない。

従って今後における対応策としては、

- (1) 経営力の強化
- (2) 事業の共同化
- (3) 経営資源の強化

等を推進していかなければならないのではないかと思考される。

#### 12. 桐生婦人子供服製造協同組合

##### ○ 商品、消費者ニーズの変化について

消費者ニーズの高級品本物志向、多様化、個性化等、ファッション性の高い

ものが一般に好まれ売れている。

○ 状況，事業概要

受注は全般的に多品種，小ロット化が進んでいる。アパレル業界において如何に生産性を上げるか，又時代の変化と共に若年労働者不足，従業員の高令化等，深刻な問題が山積しておりますが，60年度は，全般的に好調であり，受注に追れた1年であった。

○ 今後の課題

業界の低迷問題の打開策，若年労働者の不足，生産体制の確立，優秀な人材の育成，縫製技術の向上が急務である。ユーザーのニーズを的確に掴み，販売意欲を促す信頼性ある商品造り，明るい職場，魅力ある企業作りが必要である。

13. 桐生織物整経協同組合

○ 状況，事業概要

年初は非常によいムードでやや100%以上の受注あり，小ロットながら採算点すれすれで成績が良かったが，年央の世界G5会議の後からは，円高が進んで輸出が非常に少なくなった。一部業者が内地の方面へ転換し始めているので，来年度は相当内地の値くずれが，始まるのが心配です。

○ 今後の課題

繊維業界は，どの業種をみてもいずれも従業員の年令の高令化と小ロット短サイクルのはざままで苦しめられる一方，円高による単価切下げをまともに受けるのが我々の零細企業である。これを切りぬけるため非常に苦しい競争に参加せざるを得ない。

このような中で勝つためには，益々経費の節約，人件費削減と高能率化をはかるしかありません。

14. 桐生意匠協同組合

○ 商品，消費者ニーズの変化について

輸出が円高傾向のため，減少しているが，服地がファッションの短サイクル化で仕事量に変化が出て来ている。夜具地も高級化指向に移りつつある。

○ 状況，事業概要

円高等の変化で輸出関係の仕事量が減少したが，内需，洋反，服地等に仕事の変化がみられ仕事量が増加した。夜具等は山梨産地の桐生での受入れが進み，

仕事量が増え、京都外他産地の仕事も受入れが多くなってきた。

コンピューター機器の稼働により仕事の効率化、流れの変化で売上げが加工賃の値上げもないのに増加が見られた。

○ 今後の課題

デザインに対する流行の早い変化に対応出来る様、情報収集や研究会等の技術向上を一層図って行かなければならない。

コンピューターデザイン機器の活用化で、独自の新しい商品作りをして行くと共に関連業種との連携を深めて行く事である。

15. 東毛ジャカード刺繍協同組合

○ 状況、事業の概要

60年度の前半から中盤にかけての生産は、昨年より特殊関係の稼働率は良く1月より12月において安定した仕事が確保できました。又、一般のジャカード刺繍は、前半は、前年度より10%位、受注が減少したが、中盤より後半にかけて、前半のカバーができて総体で7%アップ位までこぎつけ、景気低迷の中であっても、まずまずの成果だと思えます。

○ 今後の課題

刺繍業界は、コンピューターミシンも、非常に進歩し、ミシンも精密になり又、ミシン設備も、1,000万以上になり、安易に設備投資をしても、仕事がある時代ではなく、その中で、業界の今後を考えると生き残りさえむずかしい昨今である。特に桐生は、技術が中心となった企業体質が多く、生産、技術部隊がより良い商品をより安く作る事により、仕事があった時代です。それは、かつて物が不足していた時代では良かったが、現在は国内国際的にも、商品があまっており、市場で選別される時代で、その選別にもれると全く売れない。しかし、生産技術では、カバーできない、いわゆるマーケティングが重要であり市場でいう競争力をつけるか、いかに勝つかに焦点が絞られる。自動車で言えば技術が前輪で、後輪は、マーケットであったが、しかし今後は、ヘッドライトが、デザイン部門で、前輪が営業部門で技術部門が後輪であると思えます。

当組合も東京支店での情報収集及び営業活動が中心で、製造は桐生で生産をしてゆき、産地の活性化を計りたいと思えます。

## 16. 桐生織物買継商友会

### ○ 商品，消費者ニーズの変化について

呉服業界も異状と思われる情報の拡大に消費者のニーズが多様化され一部マスコミに乗じた呉服本来の主流から見られる個性が遠去る傾向にあり，そのものの商品づくりも必要であるが，当産地の特色を生かした製織を主とし，二次加工，手工芸を従とした商品を消費者にアピールして行かないと織物産地として，企業採算的に益々厳しくなってしまうと思う。

### ○ 状況，事業概要

前年対比15%程度の落込み，帯地はやや横ばいで推移したが，着尺が著しく低下し，染加工，二次製品が多品種少量で転回するので，順調な延びがみられた。それも，主力卸問屋，デパートの手控えよりも多様化に順応できないのと扱い商品の転換によるものと思われる。市場においては，関西方面が低調であったが，その分東京方面への催事等積極的な参加で好転したと思われる。

### ○ 今後の課題

生産業者の縮小，転廃業等不安材料と消費者ニーズの多様化に依り，益々少量，精鋭主義で量的に少なくなり，内容の濃い商取引と織物組合を中心に，会員相互の情報交換を密にして，新商品の開発と販売，流通経路の研究と産地企業が生き残れる様，努力して行かねばならない。

## 17. 群馬県綿スフ織物工業組合

### ○ 商品，消費者ニーズの変化について

- (1) 桐生——商品の多角化で商品分野が拡大された。
- (2) 白十字——商品の小ロット，多品種化が目立ち，それに対応している。
- (3) 中川産業——品種基準が上昇して来ている。

### ○ 状況，事業概要

- (1) 桐生——60年9年以降の円高対策として，円高を吸収し得る新商品開発を急いでいる。
- (2) 白十字——商品の多品種，小量化傾向に対応し，売上増加。
- (3) 中川産業——ICクロスの需要の落込みで，60年3月より減産20%となり，収益状況が悪化，その後，60年10月に合理化を行ない30%程度

人員削減，その後，収益状況も改善された。

産業用資材クロスは新用途の開発等により全体的には，収益は前年とほぼ増減なく推移した。

○ 今後の課題

(1) 桐生——何と言っても円高吸収の新商品開発による欧米地区の市場開拓と，激減傾向の中近東輸出の回復。

(2) 白十字——更に商品分野の開拓とコストダウン。

(3) 中川産業—今後，品質，コスト面での競争が激化する。

コストダウンとシェアの拡大を図る。

18. 両毛輸出スカーフ協同組合

○ 商品，消費者ニーズの変化について

円高の影響がこの商品は大きく，特に中近東向出荷量の減少は，流行の変化によるものでないと商社筋では確信している。

○ 状況，事業概要

59年後半より，中近東向けが少なくなり，本年5月，6月，7月頃一時復調したかにみえたが，8月以降，又減少し，結局25%減に終わってしまった。今後円高対策及び出荷量確保の面からも，生地生産地，福島県川俣地区の景況にも大いに関連のある商品なので，両者はこの問題に対し，早急に検討する必要があると痛感する。

## 桐生市繊維振興協会会員名簿

団 体 名	代 表 者	所 在 地	電 話
桐生内地織物(協)	佐藤 富三	桐生市永楽町5-1	43-7171
桐生織物(協)	金子 匡男	〃 〃	43-2511
桐生商工会議所 繊維部	木村 一蔵	〃 織姫町2-5	45-1201
桐生織物商業(協)	木村 市雄	〃 永楽町6-6	22-7567
桐生織物産地元売(協)	木村 一蔵	〃 〃	22-9120
両毛輸出織物整染(工)	朝倉 融	〃 〃	22-2775
桐生染色(協)	丸山 茂	〃 〃	22-9661
桐生繊維製品(協)	栗原 守男	〃 仲町三丁目15-20	43-5115
桐生服地(協)	小林 松	〃 永楽町5-1	43-2511
桐生糸商組合	川村 佐助	〃 仲町三丁目15-6	44-4171
東日本編レース(工)	黒沢 岩雄	〃 永楽町6-6	22-3847
桐生撚糸(工)	坪川 二郎	〃 〃	44-9431
桐生婦人子供服製造(協)	中島 静雄	〃 川内町一丁目47-14	65-7143
両毛輸出スカーフ(協)	古谷 恒	〃 浜松町二丁目8-20	44-1771
桐生織物整経(協)	高久 勇雄	〃 永楽町6-6	22-9184
桐生意匠(協)	柘植 洋二	〃 〃	22-7088
桐生絞紙(協)	高橋 金五郎	〃 〃	22-5854
東毛ジャカード刺繍(協)	朝倉 健太郎	〃 新宿三丁目7-34	43-1166
桐生刺繍商工業(協)	栗原 優介	〃 永楽町6-6	22-7919
桐生金銀糸(協)	今西洋 右	〃 新宿三丁目4-57	22-8539
桐生織物買継商友会	小沢 圭正	〃 広沢町二丁目3125-53	54-0030
群馬県綿スフ織物(工)	松島 武雄	〃 永楽町5-1	43-2511